

⑦5 大洗サンビーチ 津波・高潮対策事業

受賞機関 茨城県 茨城港湾事務所大洗港区事業所
茨城県 水戸土木事務所

キーワード 観光地での災害復旧、多重防御、海岸利用の向上

全建賞審査委員会の評価ポイント

東日本大震災による津波で被害を受けた市街地の保全及び観光客の安全を確保するために、堤防や護岸を整備した事業。大洗サンビーチの海岸利用や津波からの円滑な避難などに極力支障のないよう段階的に高さを上げた堤防と護岸による多重防護を実施するとともに、スロープ設置や盛土・緑化などを行い「防護」「環境」「利用」が調和した海岸保全に取り組んだ点が評価された。

1. はじめに

大洗サンビーチ（大貫海岸）は、茨城県のほぼ中央部にある大洗町に位置し、県内随一の入込客数を誇る海水浴場として県内外から多くの観光客が訪れている。

平成23年3月に発生した東日本大震災において、津波により背後の中心市街地までも甚大な被害を受けたことから、背後地の防護のみならず市街地保全及び観光客の安全確保が重要な要素となってきた。海岸の利用や津波からの円滑な避難などに配慮しながら、堤防や護岸を整備し、平成29年5月に完了した。



2. 事業の概要

発生頻度が高く、大きな被害をもたらす津波（L1津波）を想定し、この水位に対し背後地等を防護する堤防（TP+4.5m）を、津波越流時における減災効果を見込み、被覆ブロックを用いて整備し、粘り強い構造にするとともに、堤防前面には高潮に対する確実な防護及び円滑な避難が実現できる高さの防護施設（TP+3.0m）を整備

することで多重防護を実施した。併せて、砂浜への良好なアクセスを確保するため、スロープの設置や緑化（張芝）等を行い、「防護」「環境」「利用」の周辺と調和した海岸保全に取り組んだ。

3. 事業の成果

この事業によって整備した堤防や護岸は耐久性向上の工夫（①陸側法面被覆ブロックの連結をかみ合わせ構造とし補強、②天端被覆工に空気抜き孔を設け、有害な空気圧を除去、③陸側法留コンクリートの勾配変化部を一体構造物化して強化、④陸側法尻部を地盤改良し補強）をしており、発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす津波（L2津波）に対しても被害を軽減することができる構造とした。また、現場発生砂を用いて堤防・護岸間に緩傾斜の盛土を実施し従来からの砂浜としての魅力を維持した。また、緩傾斜（勾配1：20）スロープ等を駐車場から砂浜まで整備することで、なだらかな動線を確保し、砂浜まで車いすでの移動も可能となった。



4. おわりに

本海岸は、地元大洗町の「復興まちづくり計画」においても観光レクリエーション拠点として位置づけられ利用促進対策が計画されており、また、ユニバーサルデザインビーチとして、NPO法人やボランティアが中心となって海岸利用の向上について活動が続けられている。今回の事業により、大洗サンビーチを中心として地域が一層発展し、新たなまちづくりが創出されることを期待している。

賛助会員 株木建設(株)